

「障がいのある子どもと生きる」

- 概要 専業主婦の美香さんには一人娘の由香がいる。美香さんは育児書を使って育児をしていたが由香の反応に育児書と「何かが違う」と感じるようになる。不安を感じ由香を小児専門病院に受診させると頭蓋骨の影響で脳が十分に発達していないことがわかる。頭蓋骨の状態を治しても知的障害を持つ可能性が高いことを指摘される。2歳になった由香は様子が一年前と変わらず母親たちの反応も気になる。由香が3歳になったとき小児専門病院の勧めで知的障害通園施設の発達相談を申込みSW(児童相談員)と面接することになった

<知的障害通園施設>

・ADL(日常生活動作)、社会生活への適応などの面で支援を執拗とする0歳～6歳を対象とした児童福祉施設。一人一人の障がい状況やニーズに合わせて適切な療育環境を提供している。

・療育とは

身体障害のある子どもたちを支援するときに使われる専門用語。「療」は医療のことを、「育」は養育、保育、教育のことを指す。

<可能性を伸ばす>

・統合保育と分離保育

統合保育: 障害のある子と障害の持たない子が一緒に保育や教育を受ける取り組み

	統合保育	分離保育
メリット	<ul style="list-style-type: none">・障害のある子の成長を促し思いやりの心が育つ効果の期待・障がいに対しての理解が幼い頃からできる	<ul style="list-style-type: none">・子どもの発達や障害の程度に合わせて治療や訓練を行える・専門病院や関連施設と連携が比較的容易
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・障がいを持っている子がいじめや嫌がらせにあいやすい・孤立する可能性が高い	<ul style="list-style-type: none">・障害児が保護や訓練の対象としてみなされてしまう・友人関係、遊び、コミュニケーションが不十分になりがち

☆母親たちの視線が気になる

- ・由香さん自身が子どもの障害を受け入れていない可能性も
- 保護者自身の障がいに対しての理解を促すような支援
- ・障がいのある子どもを持つ親同士のネットワークの形成